

長期モニタリング事例報告 宍道湖グリーンパーク周辺の 20 年の記録より

森 茂晃（ホシザキ野生生物研究所）

宍道湖グリーンパークは、ホシザキグリーン財団の「野生動植物の保護繁殖に関する事業を実施し、もって人と自然の調和した自然環境の保全に資する」という目的のもと、環境整備事業の一環として 1996 年 6 月に開園した。宍道湖の西岸に位置する約 1.6ha の園内には木々が植えられ、湖岸に面して野鳥観察舎がある。グリーンパークは、訪れた人が自然観察などを通してこの地域の自然に親しむことができる「公園」であるとともに、野鳥などの野生動植物の「ビオトープ」としての機能を併せ持つ施設である。

そのグリーンパークでは、開園以降、園内とその周辺を対象に鳥類調査を継続しているほか、記録が少ない種などは日常の勤務中の観察記録も残すよう心がけており、2016 年 6 月で 20 年分の記録の蓄積ができたことになる。宍道湖とその周辺ではさまざまな鳥類調査が行われているが、長期間にわたって毎月の調査が継続され、日常的な観察記録が集積されている例は少ないと考えられるほか、環境整備後のこのような生物調査の記録は貴重なものと考えられる。そこで、おもに調査データを基にしてグリーンパークおよび周辺の鳥類相について整理した内容を紹介する。

調査の範囲は、園内のほか近接する宍道湖の湖岸（3 ヵ所）、湖面、北側に追加整備したビオトープ池、さらに北側に広がる水田であり、これら 7 つの調査区毎に確認した種類と個体数が記録されている。20 年間の調査の記録を整理したところ、全体で 166 種が確認されていた（日常的な観察記録を含めると 212 種を数えた）。調査区毎に記録種数を比較すると、水田と多自然型湖岸で 100 種を超え、次いでビオトープ池と園内の種数が 90 種前後と多かった。また、記録回数の上位種は、全体ではカルガモ、アオサギ、トビ、スズメ、マガモの順であったが、調査区毎ではそれぞれの環境要素の違いによる差が現れていた。また前半 10 年と後半 10 年で調査区毎の記録数（頻度）が 10%以上変化していた種として 18 種（マガモ、カルガモ、キンクロハジロ、キジバト、カワウ、コサギ、オオバン、ミサゴ、トビ、カワセミ、ヒバリ、ヒヨドリ、ウグイス、シロハラ、ツグミ、スズメ、ホオジロ、オオジュリン）が抽出された。



カルガモ



オオバン



カワセミ